

更科源蔵(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動が続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



題字の揮毫は中野北溟氏



山村輝夫の絵図集16葉

更科源蔵生誕100年 図譜 コタン生物記 更科源蔵著に拠る山村輝夫の絵図集

- ▼2003(平成15)年、弟子屈町100年記念事業の一つとして「更科源蔵文学賞」が創設されましたが、翌2004(平成16)年は、更科が熊牛原に生まれて100年目の年でした。「更科源蔵書誌」(小野寺克己編)の年譜によると、生誕100年のこの年は、更科に関係する出来事が目白押しです。
 - ▼3月/町公民館研修室で「原野の詩人 更科源蔵資料展」開催。
 - ▼6月/松井信子と朗読の仲間が、北海道開拓の村で更科作品を朗読。
絵本作家山村輝夫の絵で『図譜 コタン生物記』刊行。
 - ▼7月/北海道文学館から「更科源蔵 滞京日記」刊行。
北海道文学館で「更科源蔵滞京日記」を読むつどい」開催。
 - ▼9月/北海道文学館で文芸セミナー「更科源蔵と札幌」開催。(講師/森川勇作)
北海道文学館で「更科源蔵滞京日記」を読むつどい」開催。
- 『生誕100年記念 更科源蔵作詞校歌集』発行。(古川善盛/編・山内栄治/刊)
- このように数々の行事が催され、多数の出版物が刊行されたのです。「図譜 コタン生物記 更科源蔵著に拠る山村輝夫の絵図集」は、更科が没するまで会長を務めていた札幌弟子屈会によって刊行されています。3代目会長として会を引き継いだ森川勇作の解説文によると、
- 「画家山村輝夫は、高校生の頃近文のイヨマンテで、焚火を囲みながら、更科源蔵の話を書いている。そして山村は更科の『コタン生物記』を手に原野を歩き雑草や動物を観察し『コタン生物記』の七割をスケッチした」(筆者要約)
- と、あります。描かれた24葉のうち16葉が印刷され、頒布されました。「図譜 コタン生物記」の題字の揮毫(毛筆書き)は、中野北溟氏です。中野氏は日本を代表する書家で、北海道にこだわって活動していました。更科の詩「百済観音」は、中野氏の力強い運筆の墨書で、更科源蔵文学資料館に展示されています。
- この年、更科と文学活動などで交友のあった人たちが、更科源蔵生誕100年を記念して、生地や晩年を過ごした札幌でお祝いしてくれていたのです。



図書館だより

中央2丁目4番1号
☎(よいほんいろいろ) 482-1616

☆特集展示

『原作本特集2014』

毎回人気のこの企画、今年もやります！

今年も、たくさんさんの小説が映画化・ドラマ化されました。見てから読むもよし！読んでから見るもよし！作品の面白さを、ぜひ活字でもお楽しみください。

▼期間/11月1日(出)〜11月30日(日)
▼場所/特集展示コーナー

★10月27日〜11月9日は『2014読書週間』

今年の標語「めぐるめぐる 本の世界」『読書週間』が、一人一人に読書の素晴らしさを知ってもらおうときっかけとなることを願っています。

▼今月の休館日/3日(月)(文化の日)・10日(月)・17日(月)・23日(日)(勤労感謝の日)・24日(月)(振替休日)

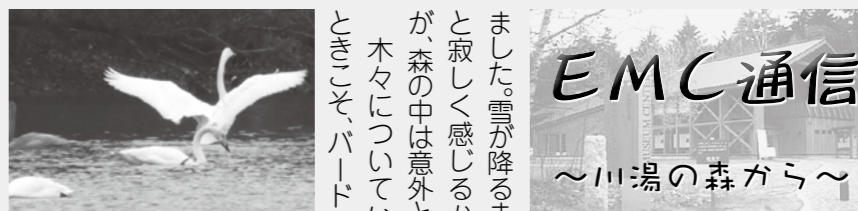
新刊案内

- 「日本のカタチ2050」 竹内 昌義ほか/著
 - 「ある日、私は友達をクビになった」 エミリー・バゼロン/著
 - 「小学生が解けて大人が解けない算数」 後藤 卓也/著
 - 「白玉屋新三郎の白玉レシピ」 白玉屋新三郎/著
 - 「マレーシア航空機はなぜ消えた」 杉江 弘/著
 - 「建築する動物」 インゴ・アルント/写真
 - 「もしも君に会わなかったら」 早乙女勝元/著
 - 「つばき」 山本 一力/著
 - 「じつはよるのほんだなは」 澤野 秋文/作
 - 「クレヨンからのおねがい」 オリヴァー・ジェファーズ/絵
- たくさんさんの新刊が皆さんをお待ちしています！

人生の悩みはお風呂で消える

小山 竜央/著
今日の夜から使える！悩みや不安を解消し、理想の人生を歩むための超実践的「お風呂」活用術を紹介。1日をリセットするのに最適な空間で「しつこい悩みぐせ」や「モヤモヤした不安」に効果抜群!!

おすすめの新聞



赤や黄色に染まって私たちの目を楽しませてくれた広葉樹も、だんだんと葉を落とし、すっかり見通しがよくなってきました。雪が降るまでの間、ちよつと寂しく感じるかもしれません。森の中は意外とにぎやかです。木々についている葉が少なくなると、バードウォッチングを楽しむチャンス！これから、冬を越す鳥(冬鳥)が観察できます。皆さんにとって身近な

バードウォッチングにチャレンジ!

冬鳥といえは、オオハクチョウでしようか。じっくり見ると、なかなか興味深い動きをしています。山鳥としてはツグミやアトリ、マヒワ、運がよければヒレンジャクの姿が見られるかもしれません。

季節による移動をせず、1年を通して見られる鳥(留鳥)としては、シマエナガ、シジュウカラやゴジュウカラ、ウソ、ヒヨドリ、ミヤマカケスにオオアカゲラやアカゲラなどなど。EMC裏に広がるアカエゾマツの森には、クマガエラの気配もあります。和琴半島や水郷公園などもおススメスポットです。

EMC館内には、20種類の鳥の音が聴ける装置があります。ぜひ、ご利用の上フィールドへ出て、1種類でも多くの鳥を探してみてください。

2階ギャラリー PV企画展開催中!

10月〜11月の2階ギャラリーでは、川湯エコミュージアムセンターを拠点として自然保護活動や美化清掃、整備修繕作業などを行っている、摩周・屈斜路パークボランティア(PV)の会員による企画展が行われています。フィールドである阿寒国立公園内で撮影した写真や、プライベートな時間に手掛けている趣味の成果などが、さまざまな表現方法で展示してあります。ぜひ、ご覧ください。



多彩な展示を見たいらっしゃいませんか

川湯エコミュージアムセンター(EMC)

☎483-4100 URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 11月は9:00〜16:00開館(水曜日休館)